

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102376		
法人名	社会福祉法人 千代田会		
事業所名	ウェルビュー明郷		
所在地	岐阜県岐阜市真砂町1丁目20番地の2		
自己評価作成日	令和5年8月6日	評価結果市町村受理日	令和5年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoQd=2170102376-00&ServiceQd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和5年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎月ご家族様にメッセージ付き写真と通信にて、近況をお知らせしています。 ・手作りの食事を提供しております。又、季節ごとの行事食を提供し、楽しんでいただいております。 ・毎月の恒例行事(フラワーアレンジメント、お茶会、おやつ作り、カラオケ)は、好評をいただいております。 ・ご利用者さまにも、時としてお手伝いいただき食事作りをいたしております。 ・コロナ禍ではありますが、ご利用者様の意見も取り入れながら、屋内で楽しめる行事を取り入れております。 ・生活全般において、個別ケアに力を入れたサービス提供を心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外出したい利用者の思いを大切にして、近所の神社や店、喫茶店に利用者と一緒に出掛けている。家族の協力を得て自宅や墓参り、外食に出掛ける方もいる。法人の車両を借りて車椅子の方も一緒にドライブに出掛けている。管理者は、職員のワーク・ライフ・バランスを考えて、希望の休みを出来る限り取れるように勤務を組んでいる。家族の状況に合わせて職員の希望する雇用形態に変更している。コロナ禍前は、花火見学やフリーマーケット、餅つき会など事業所を開放して利用者も一緒に楽しんでいた。近隣の神社の水替えや地域の清掃活動に利用者と一緒に参加したり、職員が地域の防災訓練に参加したりして地域とのつながりを大切に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの運営方針の中から、「心温まるケア」として、やさしい声かけ、話を聞くなど実践できているか、会議の場で話し合い確認している。	毎朝のミーティングで理念を唱和している。管理者は、月1回の会議で画一的な対応ではなく、利用者に合った対応を心掛けるように伝えている。職員は、一人ひとりに合った対応や声掛けを模索し利用者のペースで過ごせるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集まりや催し物への参加をしたり、散歩や買い物、地域の喫茶店を利用し日常的に挨拶を交わしている。また、清掃等地域の一員として交流を図っている。	地域の神社まで散歩に出掛けて挨拶を交わしている。地域の方から花の種をいただいている。地域の文化祭に作品を出展し、利用者と一緒に出掛けている。近隣の神社の水替えや地域の清掃活動に利用者と一緒に参加し交流している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に開催し、各委員を輪番にて担当に割り振り、担当委員より地域の状況や防災等について、お話していただけるよう計画・実施している。	事業所の活動状況や事故、利用者の状況を報告し話し合っている。家族には契約時に会議について説明し出席を促している。地域の代表者より地域の祭りや行事などの情報を得て利用者と一緒に出掛けている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	所在市町村との連携のため、情報を確認したり、協議会での指導や情報を取り入れている。	管理者は、介護保険法の改定や書類の作成、手続きなど市の担当者に確認している。事故報告書を提出に行った時に市の担当者や情報を交換している。事業所に空きが出来た時に市の担当者に相談に出掛けている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを目指し、玄関の施錠は控える等、拘束は行わないことを原則としている。また平成30年4月より介護会議で内部研修を実施している。	管理者は、事業所の方針を職員に伝え、毎月の会議で具体的な事例を挙げて話し合っている。運営推進会議で身体拘束について説明したり、問題点について話し合ったりしているが、玄関の内扉を施錠している。	玄関の内扉の施錠について職員間で話し合うことを期待する。
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護の現場で、広義の意味の暴言・暴力が無いかを会議の場で話し合っている。法人全体での研修会に参加している。	会議で定期的に勉強会を行い、具体的な事例を挙げて話し合っている。管理者は、利用者の状態を観察し気持ちを汲み取って支援するように伝えている。職員は朝の申し送りや利用者の情報を共有して不適切なケアを行わないように心掛けている。	

ウェルビュー明郷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	将来的にご利用されても良い様に学ぶ機会を持つ必要もある。外部の研修会に参加し、内部研修会に取り組みたいと思っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに対しての考え方や取り組み、事業所の対応の可能な範囲について説明し、理解を得ている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見箱の設置にともない、利用者の思いも含めて、聞き取り職員会議などを通じて運営に反映させる。家族会での意見交換や来所時に意見の聴集を図っている。	家族が面会や受診に来苑した時に、利用者の状況を伝えて意見や要望を聞いている。毎月、写真入りのハガキに利用者の近況を書いて送っている。家族から外出や外食の要望があり受け入れている。利用者から散歩に出掛けたいと要望があり職員と一緒に出掛けている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や介護会議の時に意見や提案を聞き、提案を活かせる方法を検討している。人事考課の取り組みと共に管理者と職員が1対1で話す機会を設けている。	毎月の会議に代表者や管理者が出席して職員と話し合っている。管理者は年2回個別に面談を行い職員の意見や要望を聞いている。日頃から職員の表情や言動に気をかけて声を掛けたり、わからないことを相談したりして話しやすい雰囲気作りを心掛けている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	法人全体で諸規定の見直しにより意欲を持って取り組んでいただける様努めている。	管理者は、希望の休みを出来る限り取れ入れて勤務を組んで、仕事と家庭が両立できるように配慮している。職員個々の思いを汲み取って見守り、自主的に取り組めるように配慮している。職員と話し合って家庭の状況に合わせて雇用形態を変更している。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を盛り込み、会議の場で伝える事で一人ひとりのスキルアップに努めている。	職員が希望する外部の研修会に参加することができる。研修会の費用は事業所が負担している。管理者は勤務を調整して研修会に参加できるように配慮している。研修会に参加出来ない場合は、研修内容を共有できるように書面で回覧している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域のケア会議に出席し情報の取得や法人全体の勉強会に参加したり、外部研修などを通じて交流の場を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体の支援を行っており、本人の思いを傾聴し深く知ることにより、職員間での共有に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の普段の暮らしの中から思いを汲み取り、夜間や入浴中など一人ひとりと話す機会を持ちながら把握し、職員が共有出来るよう努めている。	食事中や天気の良い日に散歩しながら利用者の思いを聞いている。広告を見て食べたい物を聞くこともある。困難な場合は職員から答えやすいように利用者に問い掛けて表情やしぐさから思いを把握している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に本人や家族のニーズを聞き、職員間で検討し、わかりやすい表現でケアプランに反映させるようにしている。ADLや体調の変化により都度対応している。	電話や面会時に利用者の状態を伝えて家族の意向を聞いている。会議で家族の意向やモニタリングを踏まえて話し合い、職員の気付きやアイデアを反映して計画を作成している。家族に説明しているが同意が得られていなかった。	介護計画について家族から同意を得るように取り組むことを期待する。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに日常生活や健康状態など日々の記録を記入している。また情報の共有の為、申し送りノートに記載する。	利用者の日々の様子や変化、職員の気付きを申し送りノートに記入している。朝・夕の申し送りで情報を共有するように取り組んでいる。介護計画を変更した時も申し送りノートで情報を共有し職員の気付きを記録している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。	利用前から楽しんでいたカラオケや生け花など利用者が希望するレクリエーションを取り入れている。コロナ禍前は旅行を企画し家族と利用者と一緒に出掛けていた。事業所においてフリーマーケットを開催し利用者が売り子やレジを手伝っている。	

ウェルビュー明郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺の地域資源を家族を巻き込んで適宜活用し、豊かな生活が送れる様努めている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診やかかりつけ医への受診往診で対応している。緊急時や家族の付添いが困難な場合は、家族と連絡を取りつつ職員が付き添っている。	従前のかかりつけ医の受診は家族が同行している。普段の様子を文書で渡し、結果を確認している。家族が医療機関の受診に同行できない時は職員が同行して結果を報告している。急患の場合は家族に連絡をして医療機関で待ち合わせることもある。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は本人への支援情報を医療機関に提供し、職員が見舞うようにしている。家族とも情報交換しながら、回復状況等速やかな退院支援に結び付けている。	入院した場合は医療機関に情報を提供している。家族や医療機関から入院中の様子を聞いて、家族に意向を確認している。管理者は退院前カンファレンスに参加し退院に向けて詳細の情報を確認して受け入れている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には事業所として対応の限界を話し、理解を求めている。変化のあった場合は、その都度検討し、家族と共に方針を統一できるよう支援する。	家族には、契約時に事業所の方針を説明して理解が得られている。状態の変化に伴い早い段階から家族の意向を確認している。家族に、どの状態まで事業所での生活が続けられるのかを説明しながら相談し次の住まいに円滑に移行できるように支援している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受講し、全ての職員が対応できるよう機会を設けている。夜勤時の緊急対応マニュアルを整備し、周知徹底に努めている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	岐阜市中消防署の指導のもと夜間想定も含め年2回の避難訓練を実施している。また、グループホーム単体の避難訓練等を実施している。更には、地域の防災訓練にも参加し、情報を得ながら協力関係を築いている。	夜間想定を含めて年2回避難訓練と年1回水害を想定した垂直避難の訓練を実施している。玄関先にヘルメットや持ち出し袋を置いている。水や非常食などを備蓄している。町内の防災訓練にも職員が参加し地域との協力関係を構築している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段や会議の中でも、人生の先輩として尊重した声かけへの話し合いをし、職員一人ひとりが自分の家族の立場に立って対応できるよう心がけている。	管理者は、声の大きさや話し方など利用者に合わせるように伝えている。職員は、入浴時や排泄時に利用者の気持ちに配慮して支援することを心掛けているが、居室やトイレにドアストッパーが付けてあり、締め切ることができない。	プライバシー確保の観点からドアストッパーの必要性について職員間で話し合うことを期待する。
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押し付けるのではなく選択肢を提案し、一人ひとりの利用者が自分で決められる様、工夫し手助けしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその一日の流れはあるが、一人ひとりの体調や気分に合わせて本人の気持ちを尊重して個別性のある支援に努めている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな料理や得意料理を聞いたり、下ごしらえや片付けなども出来る限り共に行い、出来ることを取り入れながら楽しめる様配慮している。	利用者と一緒に近所の店まで食材を買いに出掛けている。らっきょや梅干しを利用者と一緒に漬けて食卓を賑わしている。皿拭きや台拭き、下膳など利用者が出来ることを手伝っている。利用者の誕生日に寿司やウナギなど食べたい献立を提供している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定や食事・水分摂取量の記入を行い確認している。一人ひとりの状態に応じた支援に努めている。かかりつけ医との確認も行っている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状況に合わせて、口腔ケアの声かけや介助にて毎食後口腔ケアを実施し、毎晩の義歯洗浄剤の使用により清潔を保つ様心掛けている。	歯磨きが出来ない利用者には、職員が歯ブラシとコップを準備して声を掛けて歯磨きを行っている。出来ない方は職員が利用者の状態に合わせて口腔ケアを行っている。職員は、就寝前に利用者の入れ歯を預かって洗浄している。	

ウェルビュー明郷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表によりパターンの把握に努め、一人ひとりの状況に合わせた支援をしている。できる動作は自分でしてもらえよう見守りのもと行ってもらう。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を原則としているが、余裕のある入浴時間を設け、希望時や汚染時にも臨機応変に対応できる様にしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や希望等を考慮して、ゆっくり休息が取れるようにしつつ、なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更に関しては全職員への徹底に努めている。また状態観察・記録を行い、主治医・家族との連絡を図っている。	管理者は、薬の効能や副反応などわからないことを医療機関に確認して職員に伝えている。薬を一包化して、朝・昼・夜、氏名を可視化している。、飲み忘れや誤薬がないように利用者に声を掛けて名前を確認しながら介助している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し日常生活でできる事の中から洗濯や掃除、食事の準備の手伝いをお願いしている。また、近くの神社への参拝や外食・喫茶店へ出かける等気分転換を図っている。	職員は、生活歴を把握して掃除やテーブル拭き、洗濯物干しなど日常生活に役割を持って頂くように支援している。利用前から塗り絵が好きな方には継続できるように取り組んでいる。携帯電話を持ち込んで家族と自由に会話している利用者もいる。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や本人の体調に合わせ、個別又は他の利用者と共に戸外に出かけている。又、家族にも協力を促し馴染みの場所へ外出をお願いしたり、ボランティアにも協力を得て外出、外食している。	近所の神社や店、喫茶店に利用者と一緒に出掛けている。家族の協力を得て自宅や墓参りに出掛ける方もいる。急に外出を希望する場合は職員と一緒に散歩に出掛けている。法人の車両を借りて車椅子の方も一緒にドライブに出掛けている。	

ウェルビュー明郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員が管理している。本人の希望の品は、家族と相談しながら購入している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については希望時対応し、手紙についても郵便物は本人に渡したり、家族と連絡をとりながら支援している。また、毎月通信やハガキで家族に近況報告を行っている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前庭に咲いた草花を一緒に飾ったり、フロアの展示物など定期的に見直しをし季節感を感じて頂いている。	リビングに利用前に描いた油絵や利用者の好きなスポーツ選手のポスターを飾っている。週刊誌や新聞を自由に読めるように置いている。職員は、利用者が静かに過ごせるように声の大きさに気を付けている。換気や湿度に配慮して快適に過ごせるように取り組んでいる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下などにもソファや椅子、テーブルを置き各々がくつろげるスペースを作っている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物で使いやすい物品を持参して頂いて利用者の居心地の良さに配慮している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や共有部分に対して、シルバーカーや車椅子利用者にもゆとりのある空間に心掛けている。トイレや風呂、居室の名前の表記を大きくして利用者の目線に合わせている。		